

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

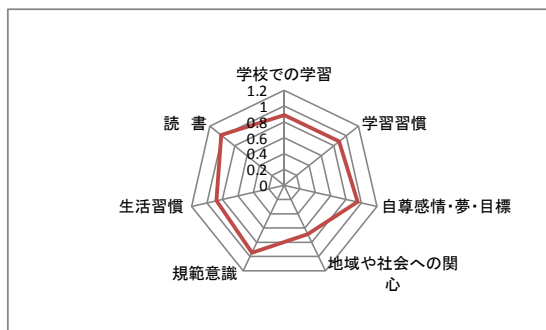
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、話す・聞く能力を問う問題はできていた。 ・読む力を問う問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・文脈に即して漢字を正しく書く問題の無解答率が20%をこえている。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたものの、昨年度より上昇していた。 ・国語Aと同様、読む力を問う問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	・必要な情報を集めるための見通しをもつことはできていた。	
	努力が必要な問題	・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題は正答率が低かった。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をわずかに上回ることができた。特に資料の活用の理解が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・錯角の意味を理解する問題は正答率が高く、無解答率は0%だった。	
	努力が必要な問題	・関数の意味を理解する問題は正答率が低く、無解答率が30%だった。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回り、特に図形分野の苦手意識が高いことが伺われる。 ・図形などの問題に関する記述式の解答は、無解答率がかなり高く、思考力表現力を養うことが今後の課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈する問題の正答率は全国とほぼ同じである。	
	努力が必要な問題	・事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する問題の正答率が非常に低く、無解答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
①朝食を毎日食べている生徒の割合は全国と比べて低い。 ②家で毎日勉強している生徒の割合は全国と比べて高いが、平日の家庭学習の時間が60分以上の割合が40.5%と全国に比べてかなり低く、家庭学習時間の絶対量の不足が課題である。 ③将来の夢や目標を持っている生徒の割合は全国より高いが、自尊感情が全国に比べて低い。生徒のがんばりや成果をほめてやりながら、それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけさせることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・自分の考えたことについて、人前で発表したり、レポートや授業のまとめを自分のことばで書く活動を授業の中で取り入れるようにする。 ・1日1枚課題プリント(数・英)を継続して行い、毎日教科担任が点検を行い基礎学力の定着を図る。 ・学期に1回学習委員会主催の〇〇コンクールを全校で取り組みその教科に対する意欲を高める。 ・定期考査後に全校一斉に朝読に取り組み、2学期は朝読の最終日に本のあらすじやお薦めしたいところなどを書き掲示する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・毎日1日1ページノートを行い、家庭学習習慣を身につけさせる。 ・学校便りなどで、生活習慣などにも触れ、保護者への協力を呼びかける。 ・小中合同研修会を持ち、学力向上についての手だてなどを話しあった。また小学校6年生に春休みの課題を出し、入学後スムーズに中学校の学習に取り組めるようにする。
